古事類苑

動物部六

獸六

熊名稱

〔新撰字鏡連火〕熊胡弓反、久萬、

〔倭名類聚抄十八毛群名〕熊　陸詞切韻云、熊音雄、和名久萬、獸之似羆而小也、

〔箋注倭名類聚抄七獸名〕說文、熊獸似豕、山居冬蟄、上林賦注、張揖曰、熊犬身人足黑色堅中、當心有白脂如玉、埤雅、熊似豕、本草圖經云、熊形類犬豕、爾雅翼、性輕捷、好緣高木、見人則顛倒自投地而下、

〔類聚名義抄四火〕熊熊音雄、今正、クマ、

〔東雅十八畜獸〕熊クマ○中略　クマといふ義不詳、百濟の方言にも、熊をばクマと云ひけり、今の如きも、朝鮮の俗、熊を呼びてはコムといふ、クマの音の轉せし也、猶此にはウマといふ語轉じて、コマといふが如くなりと見えたり、

熊性質

太古の俗、神を畏れてカミといひ、亦轉じてクマと云ひしは前に註せり、熊の如きも、其猛なるを畏れて、クマと云ひし、猶大蛇をイカヅチといふが如くなりしと見えけり、熊鰐、熊鷲、熊鷹、また猫を子コマといひ、狻猊をコマイヌと云ひしが如き、又此義なる、○下略

熊形體

〔古事記傳五〕彼梟師どものいと建かりし故に、熊曾とは云なり、熊鰐、熊鷲、熊鷹なども、皆猛きを云稱なり熊は獸中に猛き物なれば、其に准へて猛き物をも云か、はた久麻と云は本より猛きを云言なるを、熊も名に負るか本末はしらず、

〔本朝食鑑十獸一〕熊